

はさ ま 廻間遺跡 (本発掘調査B)

所在地 清須市廻間地内

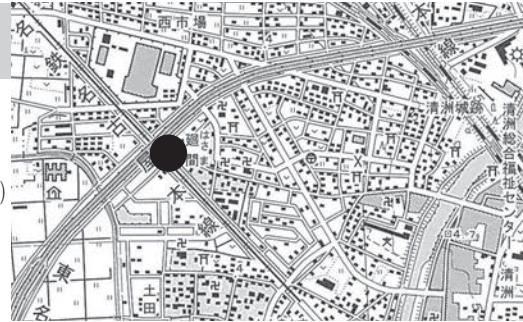
(北緯35度13分2秒 東経136度49分45秒)

調査理由 名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)

調査期間 令和5年5月～9月

調査面積 720㎡

担当者 永井宏幸・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)より愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査期間は令和5年5月～9月で、調査面積は720㎡である。

立地と環境 遺跡は清須市の中央西寄り、稲沢市と接する付近、名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線が交差する付近に位置する。遺跡は清須市域の東側を南北に流れる五条川右岸の沖積低地に立地する。標高は現況で3m前後をはかる。今回の調査は、かつて名古屋第二環状自動車道建設に伴う事前調査として実施した廻間遺跡の調査区を挟んだ両側で行った。調査区は北西側に23A区、南東側に23B区を設定した。

調査の概要 廻間遺跡は古墳時代初頭を中心とする居住域(北側)と墓域(南側)が展開し、今回の調査区はいずれも墓域の北端に位置する。23A区は既報告C区(松の木遺跡60A区)の墳丘墓SZ04の西側に隣接する。23A区では古墳時代初頭の溝を数条確認した。溝は墳丘墓に伴うものとかんがえられる(23Ae区ほか)。また、これら溝の下位から方形プランの遺構もいくつか検出した。焼土と炭化物が広がる箇所もあり、居住域と墓域が重複する可能性もある。これら古墳時代の遺構面より上位には古代から戦国・近世にいたる遺構群が展開する。23B区は既報告D区(松の木遺跡60D区)墳丘墓SZ06の東側に隣接する。23B区は古墳時代初頭の遺構・遺物はなく、古墳時代後期の溝から須恵器・土師器(宇田甕)を確認した。これらの上位には23A区と同様に古代から戦国・近世にいたる遺構を確認した。主に水田関連遺構とかんがえられる。23B区は旧地形が南東側へ低く傾斜していることから、廻間遺跡の東端に相当すると思われる。(永井宏幸)



23Ae 区古墳時代初頭の溝 (北西から)



23Bc 区調査区より北西を望む (南東から)